

「ICTがもたらす将来：ライフスタイル・社会・企業の展望と課題」

JEITA ソリューションサービス事業委員会

本セッションは、3名のパネリストによるパネル討論を行います。討論の後半に質疑の時間も持ちますのでご質問、コメントなどもぜひお寄せ下さい。

本日のパネリスト

■古屋聡一（ふるや そういち）

日立製作所 横浜研究所。JEITA次世代IT利活用検討専門委員会 委員長。

■田谷紀彦（たや・のりひこ）

NEC C&Cイノベーション推進本部。JEITA次世代IT利活用検討専門委員会 委員。

■松井一郎（まつい・いちろう）

日経BPコンサルティング。「将来のライフスタイル、社会、企業に関する調査」（JEITA, 日経BPコンサルティング共同発表）に関する調査・分析の取りまとめ。

本セッションを構成するテーマ

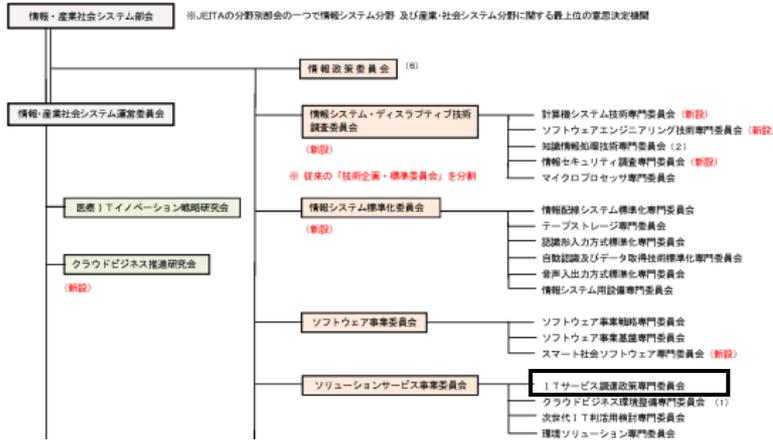
A: 「得られた若者像—つながり・共有を求め、ムダを嫌う若者達」

B: 「将来のワークスタイル—望む／望まない？ 働き方の多様性と柔軟性」

これらそれぞれについて、関連の調査結果、パネリスト意見交換、そしてICTの可能性と課題について議論いたします。

JEITA 次世代IT利活用検討専門委員会の紹介

JEITA 情報・産業社会システム部会



「強い個」の創出

「実体験や本物の価値」

「多様性のある社会」

「新たな情報・知識の流通の仕組み」

2030に向けた
4つのキーワード

将来のライフスタイル、社会、企業に関する調査
結果報告

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)
株式会社 日経BPコンサルティング
2012年3月

近未来への期待と予想
(2011年度成果)

委員会参画メンバー(2011-12)

- NEC
- 沖電気
- 東芝ソリューション
- 日本IBM
- 日本ユニシス
- 日立
- 富士通

(五十音順)

ミッション

クラウドによる近未来の社会や生活の変化に溶け込んでくるIT要素について調査研究し、クラウド時代の理想的な社会の実現に向けて、人文科学、社会科学、社会行動学等の観点から分析、提言する。

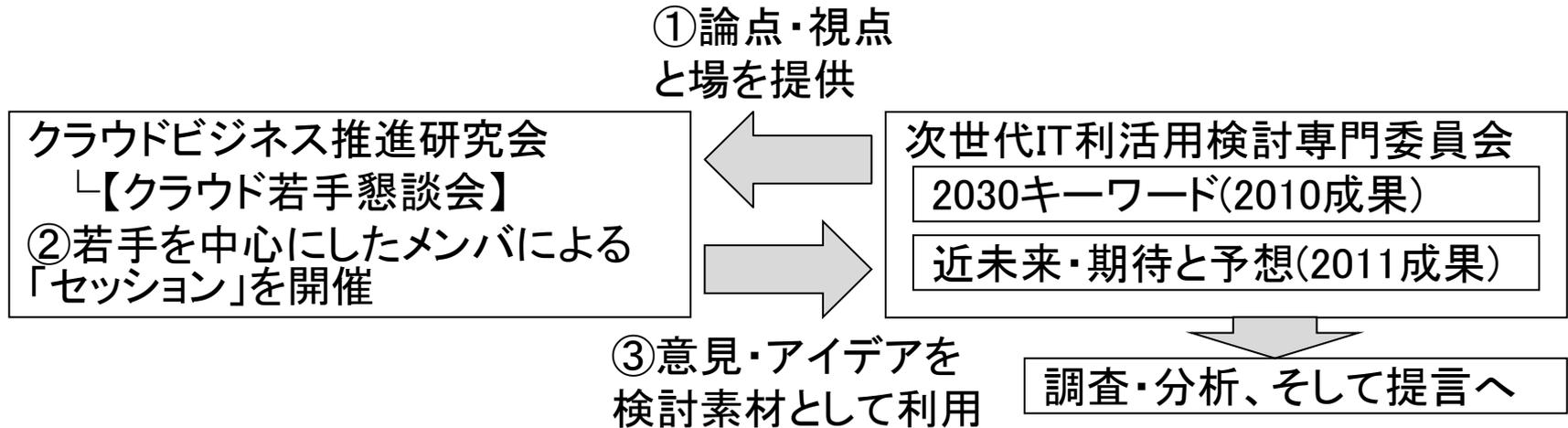
	強い個人の創出 ＜働き方＞ ＜働き場所＞ ＜働き時間＞	実体験や本物の価値 ＜人・モノ・モノ・モノ＞ ＜人がモノをモノ、モノがモノをモノ＞ ＜モノがモノをモノ＞	多様性のある社会 ＜多様な文化の学び＞ ＜多様な文化の学び＞ ＜多様な文化の学び＞	新たな情報・知識の流通の仕組み ＜学び＞、＜習得＞、＜伝達＞ ＜伝達＞、＜伝達＞、＜伝達＞
経済・労働関係	働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会	働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会	働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会	働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会、働き方改革推進協議会
教育・文化関係	教育文化庁、教育文化庁、教育文化庁	教育文化庁、教育文化庁、教育文化庁	教育文化庁、教育文化庁、教育文化庁	教育文化庁、教育文化庁、教育文化庁
社会・生活関係	社会生活部、社会生活部、社会生活部	社会生活部、社会生活部、社会生活部	社会生活部、社会生活部、社会生活部	社会生活部、社会生活部、社会生活部
産業・経済関係	産業経済部、産業経済部、産業経済部	産業経済部、産業経済部、産業経済部	産業経済部、産業経済部、産業経済部	産業経済部、産業経済部、産業経済部
その他	その他、その他、その他	その他、その他、その他	その他、その他、その他	その他、その他、その他

2030に向けた理想・場面69
(2010年度成果)

今年度活動

今年度の活動概要

「次世代IT利活用検討専門委員会」では、「課題検討WG」と共同で分析・検討を実施し、ITに関わるステークホルダへの提言をまとめる。



【クラウド若手懇談会】

・若手(30歳前後)を毎回8名を参加者と
し、肩書きをはずし、本音の発言と議論
を引き出す。

・初回(7/25)、第2回(9/3)をすでに実施し、
年度末までに6回程度実施予定。

【検討の視点】

・「若手が活躍できる社会」にむけての、
ICTへの要件やあり方を検討。
・ICT(利用、製品・サービス、コンテンツ、こ
れらの提供者)の「日本ならではの」や「日本
の強さ」について、文化的側面から検討。
・分析結果は、裏打ち・深化・定量化の目
的で外部調査へフィードバック。

参考: 調査資料のみかた

[2011年度調査報告全文](#)

google | jeita 今後のict

調査概要

- ・素データは日経BPコンサルティングによるウェブ調査で集計(2012年1月実施)。
- ・20歳以上60歳未満の計500名 (100(20歳代)+150(30歳代)+150(40歳代)+100(50歳代)。
- ・以下の集計はラジオボタンで選択する設問の集計。別途自由記述の設問もあり。

■個人のライフスタイルの期待度と実現時期

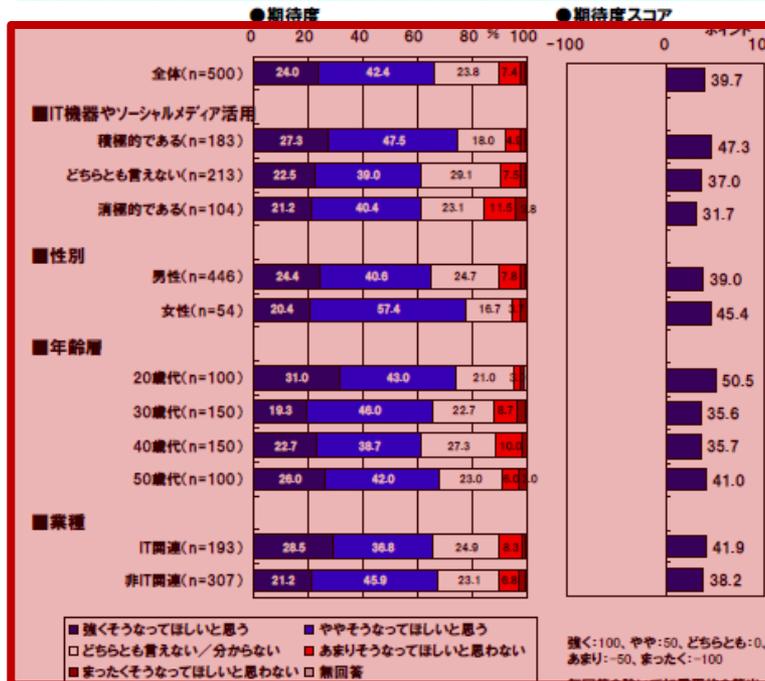
【強い個の創出】

「1_1. 従来の価値観や枠組みにとらわれず、自己実現を重視することが一般的になる」

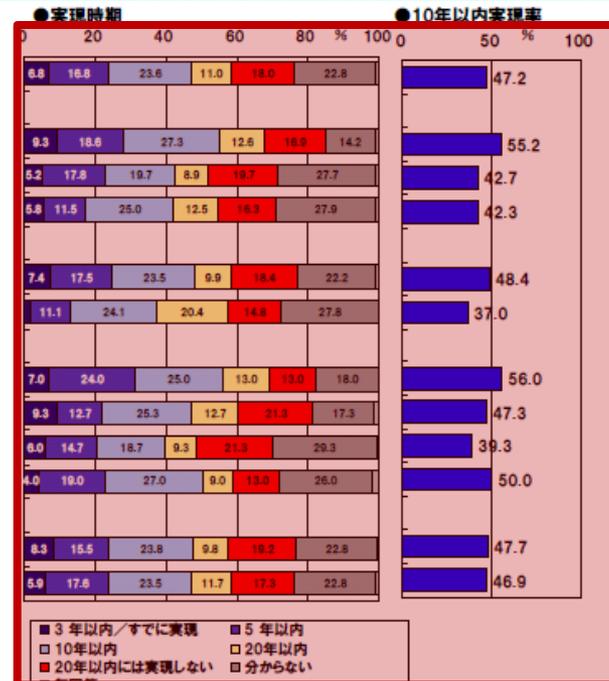
◆年齢層別でみると、20歳代で、そうなつてほしいとの期待度が50ポイントを超えた。次いで50歳代が高い。期待度が低いのは30歳代と40歳代で、35.6ポイントと35.7ポイントでほぼ並んだ。

出来事・状態

回収結果への一言結論



期待度(あなたはこの将来を好んで期待するか)



実現度(この出来事・将来は実現する/してしまうのか)